




琉球大学学術リポジトリ

帝王切開既往例の妊娠後期における子宮下節の超音波評価

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): lower uterine segment, sonographic measurement, previous Cesarean, uterine rupture, uterine dehiscence 作成者: 金城, 忠嗣, Kinjo, Tadatsugu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33666

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	金城 忠嗣
論文審査委員	審査日	平成 28年 1月 20日	
	主査教授	太田 孝男	
	副査教授	村山 貞之	
	副査教授	石田 肇	
(論文題目)			
Measurements of the lower uterine segment at term in women with previous Cesarean delivery			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、ならびに研究成果の意義と学術的水準を検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
近年、我が国においても帝王切開率は年々増加している。帝王切開は、次回妊娠時の合併症リスクが上昇し、最も重篤な合併症は子宮破裂であり母児の生命予後にも直結する。子宮破裂の早期診断と予防のために、そのリスク因子を明らかにすることは臨床的に極めて重要である。子宮下節 (lower uterine segment: LUS) は帝王切開で子宮を切開する部位であり、帝王切開既往妊婦においては、子宮筋層の“脆弱部”として子宮筋層創部離開あるいは子宮破裂の危険部位である。そこで、本研究は帝王切開既往妊婦における妊娠満期での経膈超音波による LUS (帝王切開創部) の厚さと子宮破裂リスクとの関連を明らかにすることを目的とした。			
2. 研究内容			
【対象】研究期間は2013年から2015年で、単胎妊娠例で帝王切開の既往がある予定帝王切開例 (A群) と帝王切開既往のない予定帝王切開例 (B群) を対象とした。多胎妊娠、子宮手術例 (筋腫核出等)、分娩開始例、その他、担当医が不相当と判断した症例は除外した。			
【方法】LUSの厚さは、帝王切開前に経膈超音波 (Voluson i (GE health care, 5-9MHz)) を用い、全層 (full LUS: fLUS) と筋層 (muscular LUS: mLUS) の両者を測定した。帝王切開時の LUS 肉眼所見は、grade I ; 異常を認めない、grade II ; 子宮内容を透見できない程度の筋層			

菲薄化、gradeⅢ；子宮内容を透見できる筋層菲薄化、gradeⅣ；漿膜のみを残した筋層欠損とし、gradeⅢ/Ⅳを子宮破裂のリスクとした。なお、本研究は本学臨床研究倫理審査委員会の承認後、研究対象者からは文書によるインフォームド・コンセントを得て実施した。

【結果】

A群は69例、B群は20例。A群のmLUSとfLUSの中央値はそれぞれ1.50mm、4.07mm、B群は2.75mm、5.37mmとA群で有意な菲薄化を、またLUS gradeⅢ/Ⅳ例のmLUSとfLUSの中央値はそれぞれ2.52、0.67mm、gradeⅠ/Ⅱ例では2.07mm、4.37mmとgradeⅢ/Ⅳ例で有意な菲薄化を認めた。単変量解析で、母体年齢、経産回数、前回帝王切開からの期間、分娩時週数、新生児体重、帝王切開回数、前回帝王切開時の陣痛、fLUS、mLUSの中で、fLUSとmLUSがLUS gradeⅢ/Ⅳの有意な予測因子であった。さらに、mLUSとfLUSのgradeⅢ/Ⅳ予測は、ROC (receiver operating characteristic curve) 曲線でAUC 0.91と0.88であり、十分な正確性を有していることが示された。mLUS、fLUSのカットオフ値はROC曲線より、それぞれ0.97mm、3.13mmで、感度87.5%、75.0%、特異度87.7%、91.4%、陽性的中率41.2%、46.2%、陰性的中率98.6%、97.4%であった。

3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究によって、既往帝王切開妊婦における帝王切開前のLUSの厚さの経膈超音波評価は、帝王切開時のLUSの肉眼所見とよく相関し、子宮破裂あるいは子宮筋層創部離開を事前に予測する有用な方法であることが示唆された。本研究は貴重な臨床研究であり、その研究成果は国際的にも認められる高水準のものであると評価された。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断された。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。